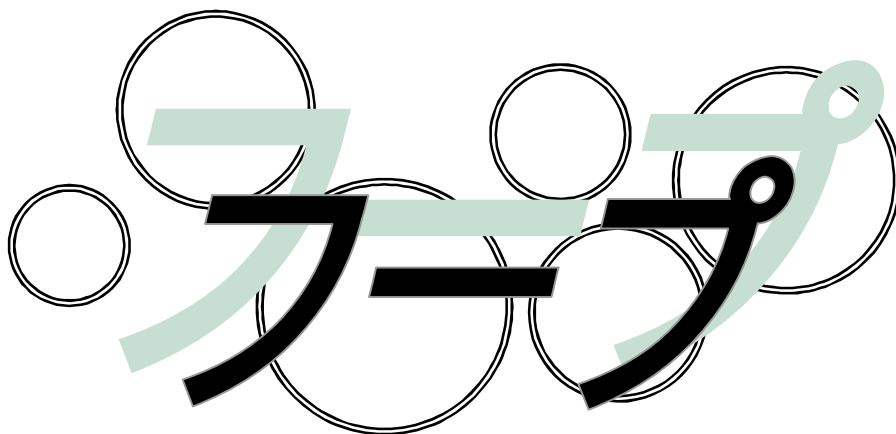




～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2013 年 秋号
第 76 号



軽井沢 旧三笠ホテル

目 次

- | | | | |
|---|-------------------------------------|-------|-------|
| ■ | 平成 2 5 年 全国女性建築士 連絡協議会に参加して | 杉田 数代 | 1 ページ |
| ■ | 初秋の美を巡る信州旅
～美しい街並み&心休まる自然の中の美術館～ | 大原 道江 | 2 ページ |
| ■ | 私と建築 | 庄田 尚代 | 5 ページ |
| ■ | 今後の事業予定 | | 6 ページ |

『平成25年

全国女性建築士 連絡協議会に参加して』

杉田 数代

「地域と共生する住環境づくり」

～見直そう、これからの住環境と暮らし～

平成25年7月13日（土）～14日（日）の二日間、東京の建築会館ホールに全国から総勢300名をこえる女性建築士が集って来ました。

私が東京に参加するのは、今回で2度目になります。一日目の13日は一人だったので緊張し、わき目も振らずに一直線で会場へ。迷わずに会場に到着し椅子に腰かけ、周りを見渡し、やっと気持ちが落ち着きました。1時15分から開会式が始まり、主催者のあいさつ、委員長あいさつ、講師：天野彰氏

（アトリエ4A主宰）による基調講演へと続けました。テーマは「江戸に学ぶ狭楽しさ～貴女だからこそできる“真”の永久居住空間づくり～」。「狭さの三竦（すく）み」「狭苦しい」の反対は「狭楽しい」というお話で、私は手を伸ばすと前の「あれ」が取れ、後ろを向き手を伸ばすと「これ」が取れる、あんまり動かなくともいいのが「良し・・・」と思っていたので、「狭楽し」に「やったー」と少し感動しました。そして、「減築」はプラス思考の生活防衛術ですとのお話もありました。勤めが終わったのちの生活、老いを楽しく生きるため、生活資金をどう工面するのか。長いこれからの人生をどう生きるのか。コンパクトな家に建物だけではなく住まい方、生き方の発想の転換が必要。「減築」で余った土地を駐車場や貸店舗に、子ども部屋を昔ながらの“下宿”などの貸屋にするなど、これからは生きる手段を考える総合力が設計者にも必要とされるのですと。狭い家、車いすより這ってでも自立して生きる家にする。私は両親が他界して一人で生活しています。自宅は一階の一部を貸店舗にし、二階が寝室。水回りは全て一階にあるので足を捻挫した時は非常に大変でした。「減築」「自立して生きる家にする！」という講師のお話は、私にとっての最大の課題です。

休憩の後、「活動発表」が2題、続いて被災地における現状報告と取組を、岩手・宮城・福島・長野が発表。終了したのは午後6時でした。

二日目14日は、8種類の文化会に分かれて各自が参加。私は山本委員長、本保副委員長とご一緒のG文化会「高齢社会」に参加しました。この文化会では、昨年末に全国の建築士会に協力していただいた住宅改修事例の中から、群馬県と熊本県の2士会の活動報告を参考に高齢者（障害者等も含めて）の生活を支援する住環境整備に建築士としての姿勢、関わり方などを参加した皆と一緒に考えました。



＊「リフォームヘルパー」について：群馬県建築士会
・成り立ち、活動、課題と今後の展望等。

＊あなたはどのように意見の集約をされていますか
：熊本県建築士会

- ・高齢者、障害者の住宅改修事例や相談経緯の報告。
- ・シュミレーションでの寸法の確認の事例。
- ・「良かったなあ～」と言ってもらえたお話。

分科会後は、会場を移動して全体会へと続けました。



全体会での文化会の報告風景

『 初秋の美を巡る信州旅
～美しい街並み&心休まる
自然の中の美術館～ 』
大原 道江



この旅の名には美しく、やさしい、心地よい響きがあり、心洗われる何か？を得られる様な期待を胸に、道の駅 針テラスから山本委員長、安田さん、他数名の方と一緒にバスに乗り込みました。福本会長の御挨拶、宮崎さんのコース説明があり、さあ出発です。

名阪道→東名阪道→名古屋高速→名神道→中央道→天竜峡 IC から三遠南信道へ。直に最初の見学先、飯田市立小笠原資料館/旧小笠原書院へ。



資料館は、1999年妹島和世＋西沢立衛/妹島和世建築設計事務所による設計です。妹島和世氏のお母様が小笠原家出身の方である事から依頼されたと、館内の小さなプレートに書かれてありました。

敷地は旧領主居城があった場所で、室町時代の城山の中腹に位置します。前面の南側傾斜に旧小笠原書院(国の重要文化財)が保存、公開されています。旧書院に代々残されてきた武具や古文書、生活品が展示されています。この資料館は、旧書院からの後退距離と後ろの城山により、建物のボリュームが決定されたとの事です。敷地の形を重要な歴史的遺構の一つと捉え、敷地の形をそのままに、山際に添う

ように6本の柱で少しだけ持ち上げられています。細長い緩いカーブをもった、斬新ではあるが、ありったけでなく、静かな主張を感じさせるものでした。

旧書院は江戸時代の旗本伊豆小笠原氏の居館の内、唯一現存するもので、南側3分の1を崖上に突出した懸造りの全国的に珍しい遺構で、総柿葺きの建物です。ここでは、地元のボランティアの方から懇切丁寧なご説明を頂き、その方の熱気に押されながらの見学でした。

次に、東御市海野宿重要伝統的建造物群保存地区(長野県東御市)を訪れました。ここでも、市職員の方の細やかなご説明を頂きながら、千曲川の90°程曲がった所から、楽しいゆったりとした散策が始まりました。

海野宿は千曲川東側に北国街道沿いに築かれた宿場町で、宿場時代の旅籠、明治時代の養蚕で栄えた塗籠造りの町屋、道路脇の水路が豊かな街並みを形成しています。伝統的な建造物の意匠として、「卯立」「海野格子」「出桁」「気抜き」がそのまま残されています。「本うだつ」は江戸時代、「袖うだつ」は明治時代のものであり、重厚で見応えがあります。時代がくだってからは、その家の本来的な機能よりも力を表す手段ともなってきたとの事です。長短2本ずつ交互に組み込まれた「海野格子」は、単純な組み方なのに見事な意匠となっていました。



「出桁」は江戸時代の旅籠造りのもの、「気抜き」は明治に入り、宿場機能が失われてから養蚕の村へと移り変わった名残りです。板戸を開け閉めした空調の用途に使われていました。本当に見応えのある海野宿の見学でした。

又、海野宿の産土神である白鳥神社の社叢の佇まい、境内、境内の中央にある樹齢700年を超えるけや

きの木も、歴史を彷彿とさせ、心に残りました。

夕刻、小諸のホテルに到着。夕飯までの間、翌朝ホテル出発までの間は、懐古園各自見学の時間が設けられていましたが、私はホテルでダウン。朝も寝入ってしまったて見学パスとなっていました。申し訳ありません。

2日目AM8:30、ホテルを出発し30分程で旧三笠ホテルへ。明治38年(1905年)に三笠ホテルの創建者、山本直良氏により落成された木造2階建てのホテルです。昭和55年に国の重要文化財に指定されています。設計は欧米に学んだ岡田時太郎氏で、建築様式は木造のアメリカスティックスタイル。建具はイギリス風、用材は小瀬の赤松を製材して使用されました。部屋にはベッド、洋服箆笥、机椅子、暖炉、部屋の隅に洗面があり、お風呂とトイレ室は廊下側にあり、ねこ脚のバスタブと便器が。給湯の為でしょうか、廊下から出入り口(腰丈まで)が設けられ、高い位置ですが大きく窓があったのが印象的でした。



見られない?窓を開けてお風呂に入ったのかしらと余計な事を想ってしまいました。

天井には、広葉樹を皮付きのまま半切りにして、格子状に張り付けてありました。机と椅子、腰掛けには彫りが施されており、軽井沢彫りと呼ばれています。美しい、そして丈夫なテーブル&イスセットでした。

次に、軽井沢千住博美術館へ。西沢立衛氏の設計です。既存の敷地形状に合わせて建てられているのがまず、大きな特徴のようです。元の地盤をそのままに、どこも造成されていません。約40m×70mの不定形な自由曲線の平面形状で、屋根も床もそれぞれ異なる3次曲面から出来ており、内部は一つ

の空間(一室空間)です。

構造としては、2mグリッドの格子状のH鋼梁組が作り出すおおらかな屋根を、鉄骨ブレースを持つ耐震壁とポスト柱で支えています。最大12mスパンをとばす鉄骨ブレース構造で、大空間が形成されています。

4つの中庭から自然光が取り込まれ、自然の中に佇んでいる様な感覚です。この中庭が展示空間の演出に、重要な働きをしている様に思われました。

外部からは森に取り囲まれ、建物の輪郭はおぼろげです。又、約3000坪の敷地には、多種類(150種類、6000株とか)の美しい樹々、草花が沢山植えられ、カラーリーフガーデンとなっており、楽しませてくれました。本当に色んな色、ピンク、イエロー、パープル、シルバー、レッド等、こんな色あつたのという感じでした。

美術館館長、品川恵保氏の御挨拶には、「軽井沢は自然と文化が調和した場所として知られております。軽井沢に自然とそれを受けたアートと、建築による空間造りを計画して参りました。この計画を実現する為に、日本を代表する美術作家の千住博氏と建築家の西沢立衛氏に協力をお願いしました…」とあります。千住博作品と一体になった美術館を内からも外からも堪能させて頂きました。

次に最後の見学地、軽井沢タリアセンへ。ここで昼食、見事なバーベキューを皆で楽しく頂きました。

「軽井沢タリアセン」とは? 建築家ライトは自身の創作活動の拠点に、芸術を司る妖精「タリエシン」に由来する「タリアセン」の名をつけ、そこから独自の物づくりを成長させていきました。このライトの考えに共鳴し、自らの力で新しい文化、生産の拠点として発展させたいという願いから名付けられました。

園内には唾鳩荘「旧朝吹山荘」、「旧軽井沢郵便局舎」、「ペイネ美術館」、「堀辰雄山荘」、「野上弥生子書斎」など多くの歴史的建造物が移築されています。

「旧朝吹山荘」は、W.M. ヴォーリズ設計、昭和6年建造の山荘でした。重厚な、そして大きな居間では展示の写真などもあり、当時のご家族の過ご

された様子が彷彿とさせられました。

ペイネ美術館はアントニン・レーモンド氏により、昭和8年にアトリエ兼別荘として建てられ、「軽井沢・夏の家」と呼ばれていました。

ちょうどお昼頃から雨になりましたが、さほどの量ではなく、心配されたお天気もかろうじてくぐり抜け、無事帰路につきました。とても素敵な信州軽井沢への旅でした。



旧朝吹山荘



ペイネ美術館

ユニバーサル研究部会 講演会のご案内 「パーキング・パーミット」の制度とは ～必要とする人に～

昨年に続き、再び八木三郎先生のお話を聞く機会ができました。

今回は「パーキング・パーミット」の制度について、本年8月にデンマークのユニバーサルデザイン視察に行かれた際の現在の様子をパワーポイントでお話していただきます。

- ・講 師 : 八木三郎先生
天理大学おやさと研究所准教授（社会福祉学）、天理市障害者施策検討協議会会長他
- ・演 題 : 「パーキング・パーミットについて」
- ・開催日時 : 11月7日（木）18:30～20:30
- ・開催場所 : 建築士会館 1階会議室
- ・参加費用 : 士会員500円（資料費含む）

ご参加を希望の方は、氏名・CPD番号を記載しファックスにてお申込み下さい。（CPD2単位）

申込み先 : (一社) 奈良県建築士会事務局

FAX 0742-33-4333

*** パーキング・パーミットとは ***

身体障害者駐車場に駐車する際、利用許可書を発行する制度です。日本では、地方自治体により制度名が異なる場合があります。2006年7月に佐賀県で初めて導入され、現在は30府県2市で導入しています。



私の実家は設計事務所です。子供の頃、入室禁止の設計室の中がとても気になって気になって仕方ありませんでした。事務所にはお兄ちゃん（所員の人を当時そう呼んでいました。）が数人いて、整然と一列に並んだドラフターに向かって図面をかいていました。今ではめったに見ることができなくなりましたが、ドラフターは足のペダルを踏むとスッと製図板が上がりレバーを左右にひねると製図板の角度が自由に変えられ、帯状のマグネットでトレペをピタッと貼り付けて製図するものです。最先端の機械を使いこなしているっていう感じで事務所のお兄ちゃんたちはとても格好良かったです。また、図面に押す室名や数字などのハンコがぎっしりと入っている鉄のケース、A1 サイズの図面をおるヘラ、図面を入れるケース等ひとつひとつがかっこよく、今から思えば、この頃から建築の仕事がしたいなと考えるようになったと思います。

大学では、地域環境工学のゼミに入り、町並みの調査等を行いました。また、ちょうど日本の町家型住宅の伝統的なエレメントについて研究する目的でメキシコからの留学生と一緒に、三重県の関町や一身田町をはじめ、京都等色々な町を訪れ、町家のスタイルを勉強しました。今からでは考えられないような大きなパソコンでフロッピーディスクに調査結果の入力を行っていました。私は彼女と接することで改めて日本の伝統的な形を知る機会となりました。卒業後は彼女と一緒にメキシコ旅行に行きピラミットや観光地だけでなく、山の中の陶芸家の住む住宅を案内してもらうことができました。現在彼女はメキシコの大学の准教授で、ゼミの学生を連れて日本でワークショップを行うために、年に一度来日した際に会う機会があります。

卒業後、ゼネコンの設計部に入社しました。当時バブルは終息気味でしたが、比較的影響の遅い建築業界では、まだ、床・壁に石をふんだんにデザインして貼れるような仕事が多くありました。私も三角に切った大理石をアラベスク模様に貼ったり、割肌 of 砂岩を壁に貼ったり、カウンターや照明器具をデザインして製作してもらったりするようになって楽しい仕事をさせていただいていました。デコンストラクションが流行り、周りでは新しい建物や全国各地でテーマパークがどんどんつくられ、それを週末毎に訪れるのが楽しみでした。

結婚、出産後は、実家の事務所を手伝っています。子供の頃と全く変わらないところです。ただ、ドラフターではなく、パソコン、プロッター、コピー機、プリンターの電化製品の熱のなかで仕事をしています。家ではダイニングのテーブルでスタディー模型をつくったりしていると子供たちが周りに集まってくる、切れ端で自分たちも何か作ったりしています。私が子供の頃感じたような気持ちをもってくれたらいいなと思う反面、もっと魅力的なものに出会ってほしいとも感じています。

最近では老人ホームの仕事が多く、新型ユニットの老人ホームを設計しています。新型老人ホームを提案された宮脇檀先生が老人ホームを設計するに当たり、老人ホームに移り住み1年程生活し、そこから仕事に出かけておられたという話を聞いて、設計者はそれほどの意気込みがないといけないのかと反省しています。実際老人の日常生活を見ていないのに、少しの間滞在しただけで、生活のこと、精神的なこといろいろ思い描いているだけで、いざ出来上がってしまうと1年1度の定期調査程度にしか訪れることはありません。

雑誌などでは、3次元CADやバーチャルなシュミレーションによる計画を目にします。建築の道具はすごい勢いで進化し、小設計事務所ではそれに追いつくのに限界を感じています。ただ、子供の頃に感じた建築への憧れや、宮脇先生の手法は変わらないものがあると思っていて今後も建築を続けていきたいと思っています。

今後の事業予定

- 11月 2日 (土)
近建女合同見学会 (京都府)
- 11月 7日 (木)
ユニバーサルデザイン講演会
『「パーキング・パーミット」の制度とは
～必要とする人に～』
- 11月 9日 (土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
(斑鳩町法隆寺五丁地区地域交流館 法隆寺)
- 11月10日 (日)、24日 (日) 模型講習会
- 11月27日 (水)
なら・すまいアップセンター住宅相談
(奈良県建築士会館)
- 11月27日 (水) 大人の工場見学会
- 12月 5日 (木)
2級・木造建築士「設計製図」
試験合格発表 (予定)
- 12月 6日 (金)
理事会 (奈良県社会福祉総合センター)
- 12月 7日 (土)
第33回近畿建築祭 大阪大会
- 12月14日 (土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 12月19日 (木)
1級建築士「設計製図」試験合格発表 (予定)
- 1月10日 (金) 新年名刺交換会 (予定)
- 1月18日 (土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
(奈良県建築士会館)
- 1月22日 (水)
なら・すまいアップセンター住宅相談
(奈良県建築士会館)

- 1月23日 (木)
被災建築物応急危険度判定士講習
(奈良県文化会館)
- 1月26日 (日)
建築士合格祝賀会
- 1月 女性委員会新年会 (予定)
- 2月 1日 (土)
奈良県地域文化財建造物専門家育成講習会
- 2月 8日 (土)
第21回近畿あーきてくと
2014・地域実践活動発表会
- 2月22日 (土)～23 (日)
家と森と木のフェスタ
- 2月 奈良大茶会 (予定)
- 3月 一日見学会 (予定)
- 3月26日 (水)
なら・すまいアップセンター住宅相談
(奈良県建築士会館)

～編集後記～

日に日に秋が深まってまいりました。一時期天候が荒れ、台風や大雨の被害が多く報道されましたが、皆様のところは大丈夫でしたでしょうか。私の身近なところでは、友人の実家の畑が水につかり、作物は商品として出荷できなくなったと聞きました。

9月に行われた信州旅行には残念ながら参加できなかったのですが、今号の記事を読ませていただき、風景を思い浮かべながら旅気分を味わうことができました。いつか実際に信州の街並みや建築を見に行きたいと思います。

ご多忙の所ご寄稿いただきました皆様、ご協力ありがとうございました。

(渡邊有佳子)